

西山城跡

記者発表及び現地説明会資料



記者発表 平成18年1月20日(金) 午前10時30分～

現地説明会 平成18年1月22日(日) 午後1時30分～3時

高知県高岡郡中土佐町久礼字城山・下越

高 知 県 教 育 委 員 会
(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター

I. 調査の概要

- 1) 調査の目的：四国横断自動車道（中土佐～窪川間）建設に伴い影響を受ける埋蔵文化財について発掘調査を行い記録保存に努める。
- 2) 調査面積：平成16年度（主郭部分A～C区）2500㎡（延べ面積4000㎡）
平成17年度（尾根及び斜面部C～F区）5700㎡（延べ面積7400㎡）
総調査平面積8200㎡（総調査延べ面積11,400㎡）
- 3) 調査期間：平成16年度 平成16年11月5日～平成17年3月7日
平成17年度 平成17年4月22日～平成18年1月31日
- 4) 調査実施機関：（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター
- 5) 調査協力：地元の方々・中土佐町教育委員会・西日本高速道路株式会社・工事関係者

II. 西山城跡の位置と周辺の歴史環境

- 1) 所在地：高知県高岡郡中土佐町久礼字城山他
 - 2) 立地：道の川、松の川、久礼川の合流部。北東から南西に派生する丘陵上。
標高70mの山上。
 - 3) 周辺の遺跡（北村地区、久礼川周辺）
 - ・坪ノ内遺跡（道の川、西山城跡東麓）中土佐 I.C 建設に伴う調査で発見される。
鎌倉時代～南北朝期（13世紀後半～14世紀代）にかけての集落跡。
 - ・宗善寺跡（道の川、国道東側）南北朝期から室町時代にかけての五輪塔群がある。
伝北村氏の五輪塔（中土佐町指定文化財）
 - ・大門遺跡（道の川、現国道下周辺）戦国時代の合戦場。石積墓。
 - ・岡ノ谷城跡（川崎、西山城跡の南西側）西山城跡から久礼川を挟み対岸に立地し、平場と土塁だけで構成する山城。見張り台的な城？西山城跡との関係。
- ※その他中土佐町の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）は上記を含め26ヶ所。

III. 調査の成果

1) 遺構

平場2面、土塁2基、堀切9条、竪堀20条（竪堀群5条）、横堀状遺構1条、虎口、テラス状遺構4、通路状遺構、掘立柱建物跡4棟、柵列、ピット、土坑3基（内、炉跡1）

2) 遺物

- ・出土点数：3,125点（破片数、平成18年1月現在）
- ・帰属時期：15C前半～15C中頃、15C後半～16世紀中頃
- ・遺物内容：土師質土器：杯・皿・鍋・羽釜、瓦質土器：火鉢・風炉、備前焼：壺・甕・播鉢・水屋甕、青磁：碗・皿・盤・花瓶、白磁：皿・八角皿、青花：碗・皿、鉄製品：鉄釘・鉄滓、銅製品：冑の前立・小札・筭など武具関連、石製品：砥石・石臼・硯、古銭：洪武通宝、永楽通宝、皇宋通宝、政和通宝、無文銭、その他：土錘



至高知市

至四万十市

図1 西山城跡と周辺の遺跡

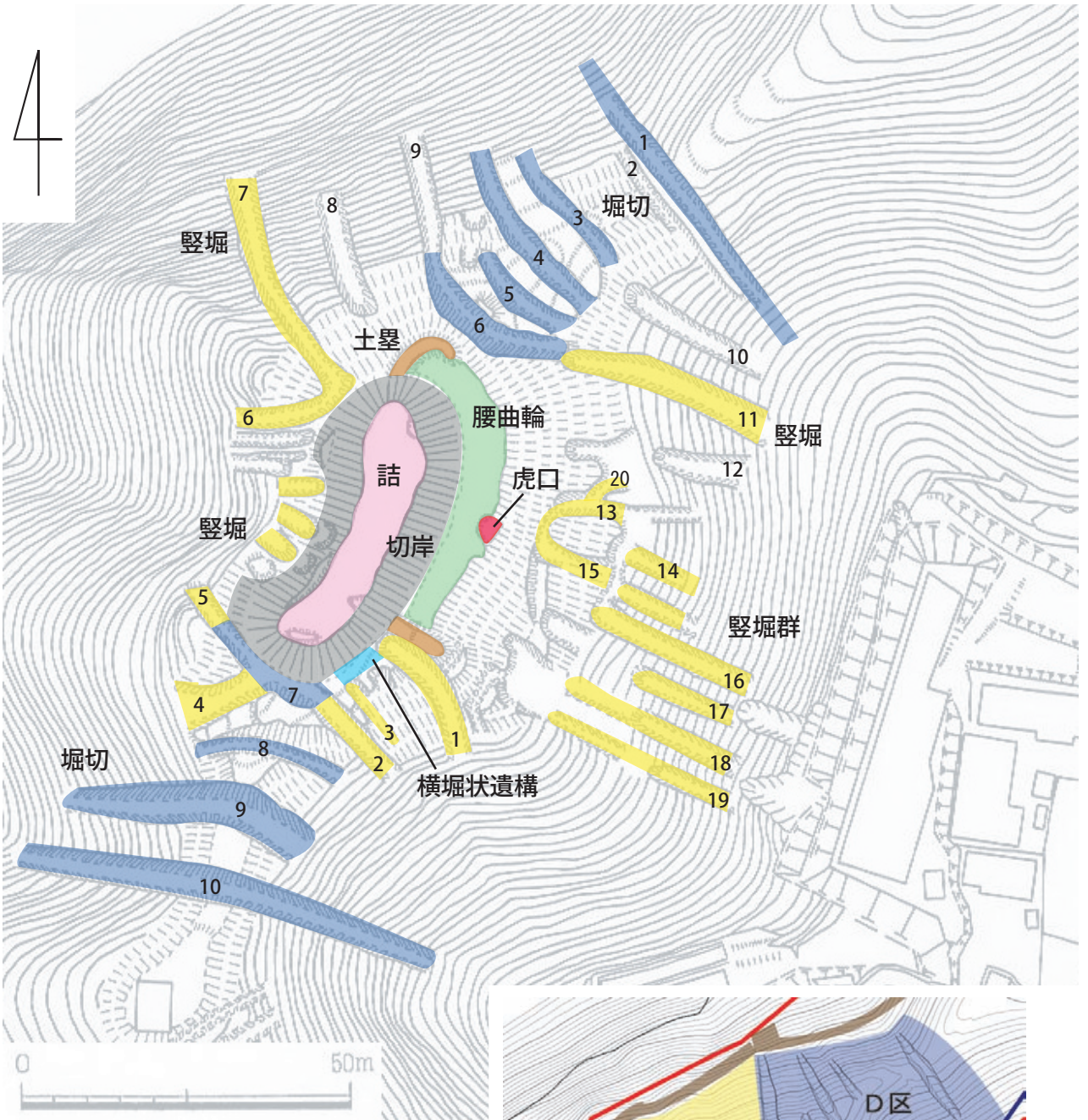


図2 西山城跡概要図



図3 上空(北)から

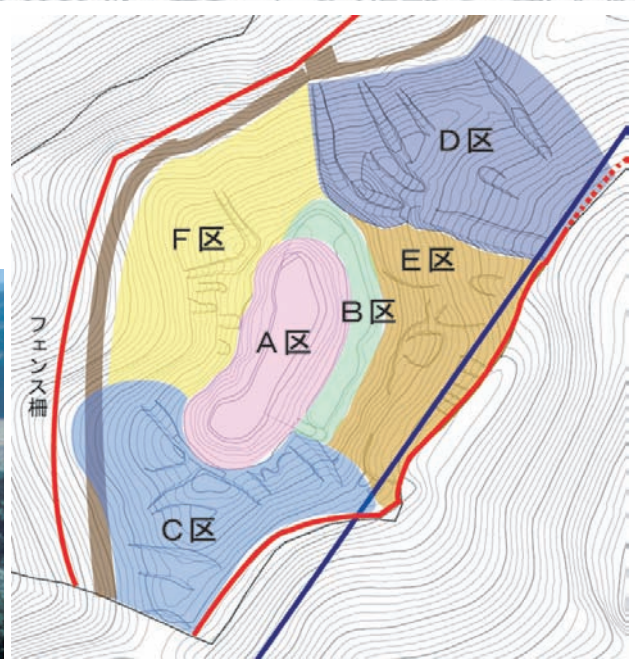


図4 西山城跡調査区図



图 5 B区北端部土塁とSB1



图 6 堀切 5 断面



图 7 B区SK2(炉跡)



图 8 堀切 7 断面



图 9 褐釉壺



图 10 青花皿



图 11 白磁皿



图 12 青磁皿

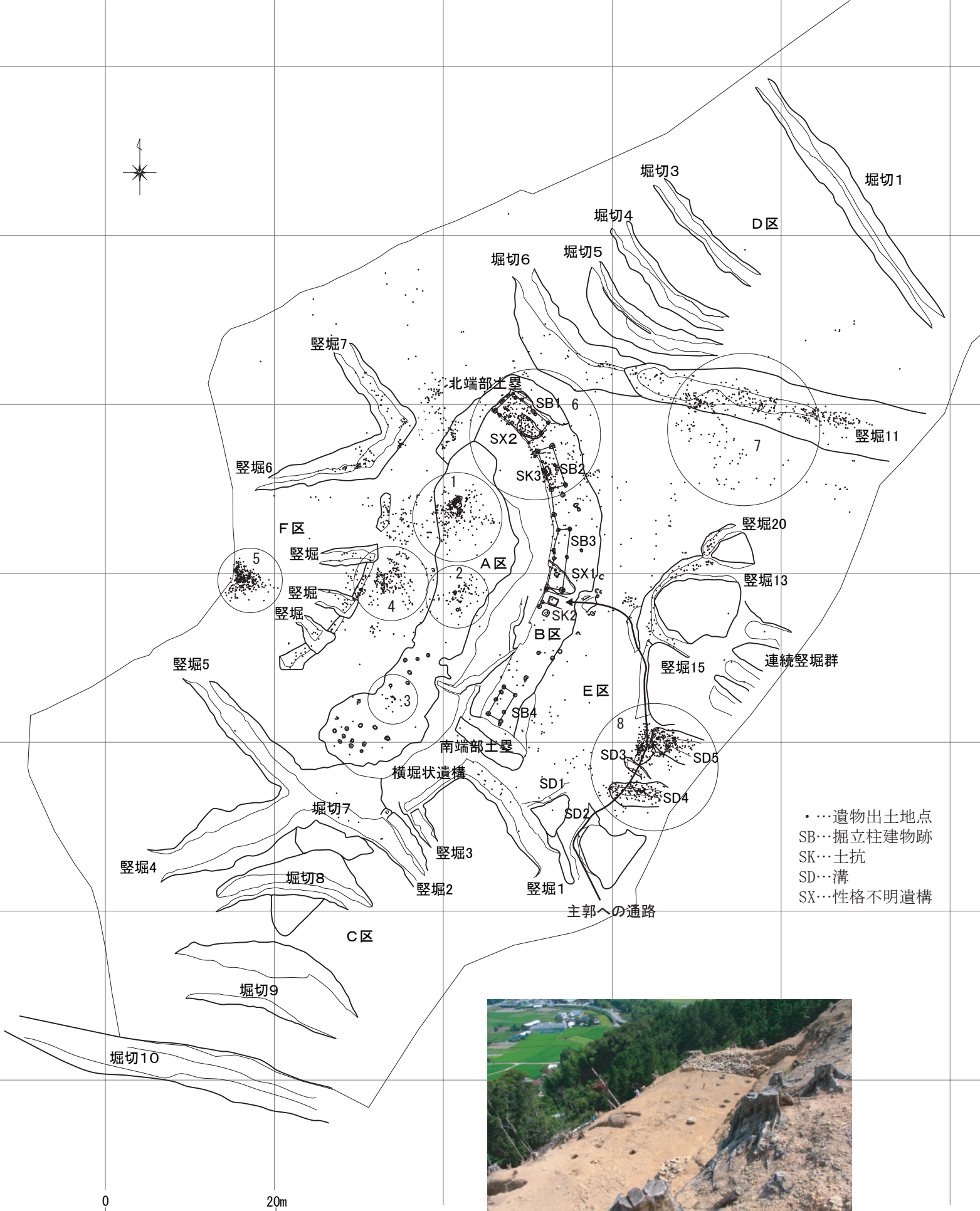


図13 西山城跡遺構図



図14 B区南端部土塁とSB4

IV. まとめ

1. 西山城跡の全貌が明らかとなった

昨年度は、西山城跡の中心部分である主郭の調査しか実施されておらず、西山城跡全体の構造については解明されていませんでした。今年度は西山城跡の尾根、斜面部について調査が行われ、堀切や堅堀といった防御目的のために造られた遺構の構造を解明することができました。最終的に城全体の約 90%を発掘調査したことになりますが、一つの城の全体を発掘する事例としては最大規模であり、特に、山の斜面部を含めての調査事例は類例が少なく城の全体構造を解明するうえで貴重な発掘調査となりました。

西山城跡は中世の山城としては非常に残りが良く、約 600 年前の姿をそのまま現在に伝えており、典型的な戦国期の山城のモデルとしてみることができます。

2. 遺構から見た西山城

- 1) 防御目的のために配置された堀切・堅堀などが数多く見つかった。また、これらの堀に付属する小規模な平場（テラス）の存在が明らかとなり西山城跡の特徴的な遺構の構造パターンとして捉えることができた。
- 2) 西山城跡山麓からのアプローチ（城主郭への進入路）が判明した。
- 3) 城の中心部（主郭）では、倉庫、兵舎小屋としての可能性がある掘立柱建物跡（SB1-4）や生産に関わる炉跡（SK2）を検出し、一時期、主郭部が恒常的に使われていたことが判明した。
- 4) 主郭部で見られる石積み土塁については掘立柱建物との時期差が考えられ、西山城跡の最終的な遺構として捉えることができ、時期によって場の使われ方が変化していることが明らかとなった。また、主郭部に連動し、尾根、斜面部に構築されている堀切・堅堀も部分的に改修されている。

3. 出土遺物から見た西山城

- 1) 城の規模、性格から見ると遺物量が多い。
- 2) 日常雑器類（播鉢・甕・火鉢など）や茶道具（風炉・茶臼・四耳壺など）が出土しており、当時の生活を知る貴重な物が出土した。また、鉄滓や羽口など鍛冶に関連するものも出土しており、一定の生産活動が山上で行われていたことが判明した。
- 3) 出土遺物の中で貿易陶磁器（中国製品）の占める割合が多く、城館クラス以上の遺跡でしか出土しない青磁花瓶（県内初出土）などをはじめ盤などの奢侈品が見られることから有力者の存在が考えられる。
- 4) 出土遺物は年代が一時期にまとまっており、当時使われていた生活道具の組成を見ることができる。
- 5) 出土遺物から見た西山城跡の活動時期の中心は 15 世紀前半～中頃と、15 世紀後半～16 世紀中頃の二時期であることが判明した。

4. 縄張りからみた西山城（以下、参考資料）

西山城跡に見られる特徴的な遺構として豎堀群が挙げられるが、周辺では津野町（旧葉山村）の姫野々城、須崎市岡本城、中土佐町（旧大野見村）の大野見城など高岡郡内に集中が見られる。この豎堀群の遺構は戦国期の 16 世紀後半代に構築される例が多いが、西山城跡及び周辺地域の城に見られる豎堀群の中には、天文年間（16 世紀中頃）に構築されている可能性のものがああり、今回の西山城跡の調査成果で裏付けることができた。天文年間の高岡郡内の一条氏と津野氏の攻防を知る上でも重要な成果があった。

5. 西山城跡から久礼城跡へ

今回の西山城跡の調査成果は、久礼城跡と佐竹氏の関わり、更に周辺地域における山城の構成を知る上でも有機的な成果を得ることができた。西山城跡の城主については不明な点が多く、地元伝承では西山城を含めた久礼川北部一帯の北村には北村氏という在地領主の名が伝わるが、南北朝期以降の佐竹氏（佐竹繁義一義之にかけて）が関与していた可能性も考えられている。永正十四年（1517）津野氏の戸波城（土佐市）攻めの時には恵良沼で津野氏との攻防があり、天文年間（1543～1545 年）には一条氏と津野氏との攻防など、高岡郡内における戦の時に西山城跡も布陣に取り込まれていった可能性が考えられる。

中土佐町にはもう一つ久礼城跡があるが規模は西山城跡よりも大きく、県内では拠点の城郭として位置付けられている。久礼城跡については昭和 59 年に詰の一部が発掘調査されており、礎石建物跡や 16 世紀後半代の遺物も見つかっている。今までの県内の事例で礎石建物が山城に出現するのは 16 世紀後半以降と考えられており、この頃から拠点の城郭の山上に居館が建てられるようになる。久礼城全域の調査が行われていないので断定は出来ないが、久礼城の主郭部分については 16 世紀後半以降に改修が行われ久礼城跡が中心的な城としての機能を果たしていたと思われ、遺構から見た西山城跡から久礼城跡への変遷が追える。高知県内にはこうした中世の山城が約 600 城跡以上（平成 11 年度分布調査報告書による）の存在が知られており、西山城跡の発掘調査は今後の高知県の城郭史にとって大きな成果となった。

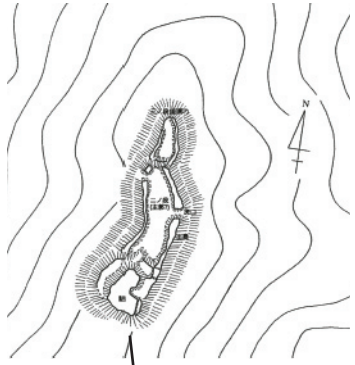


図 15 中土佐町久礼



図 16 久礼城跡

宮地啓介氏作図



宮地啓介氏作図



「図説中世城郭辞典」三 村田修三編より

図17 各城跡縄張概要図



图 18 E区SD4断面



图 19 F区竖堀



图 20 E区作業風景



图 21 F区遺物出土状況

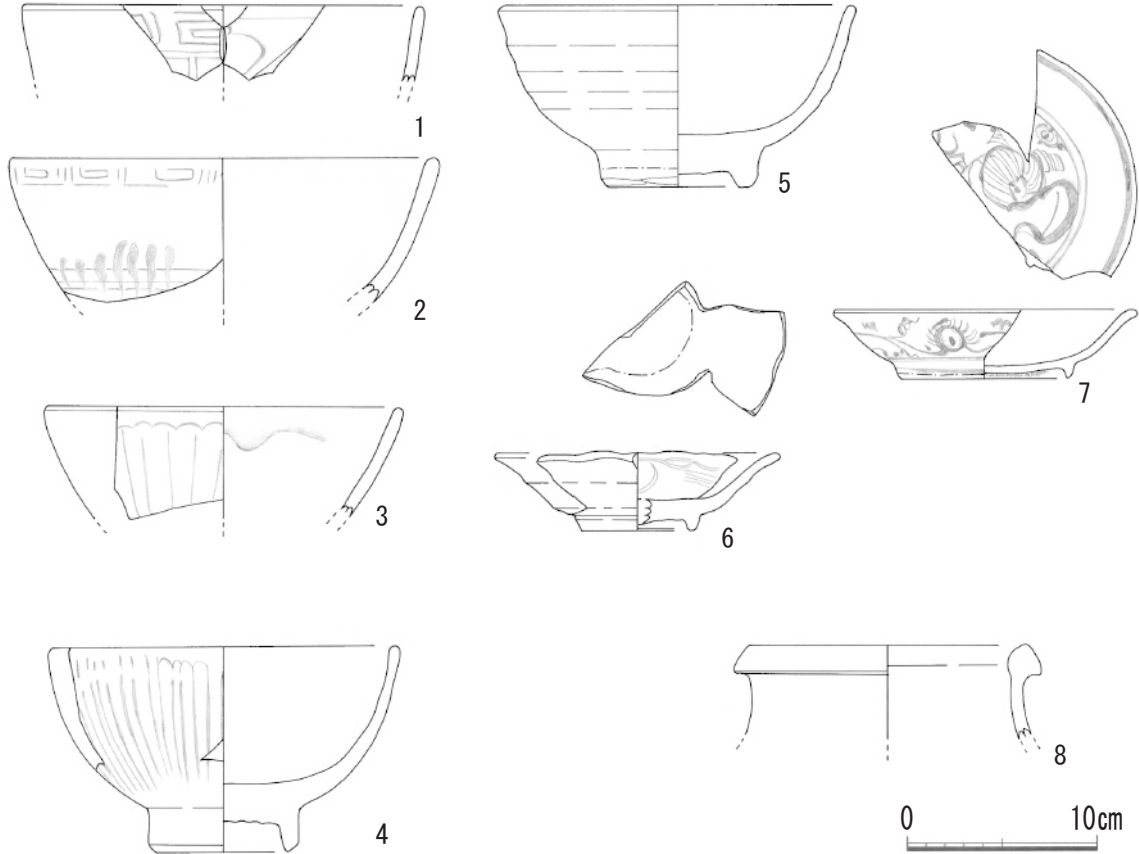


图 22 西山城跡出土貿易陶磁器 (1 ~ 5: 青磁碗・6: 青磁皿・7: 青花皿・8: 褐釉壺)